

ゆみ, 99, 247—253.

論 文

- 1) 近藤四郎・江藤盛治・茂原信生・羽倉信彦 (1975) : ニホンザル (志賀A群) の骨格発育状況。生理生態, 16, 65—71。
- 2) 岩本光雄 (1975) : ニホンザル志賀A群における皮膚隆線系について。生理生態, 16, 73—75。
- 3) 岩本光雄 (1975) : ニホンザル志賀A群における四肢奇型について。生理生態, 16, 77—79。
- 4) 岡田守彦 (1975) : 手指の皮膚温からみたニホンザル志賀A群の局所耐寒性。生理生態, 16, 81—85。
- 5) 渡辺 毅 (1975) : 生体計測からみたニホンザル志賀A群の特徴。生理生態, 16, 55—63。
- 6) Okada, M., H. Ishida and T. Kimura (1976) : Biomechanical features of bipedal gait in human and nonhuman primates. "Biomechanics" (V-A, P.V. Komi ed.), pp.303-310, University Park press, Baltimore.
- 7) Tokura, H., F. Hara, M. Okada, F. Mekata and W. Ohsawa (1976) : Effect of clipping the coat in the thermoregulatory responses in the Japanese macaque (*Macaca fuscata*). *Jap. J. Physiol.*, 26, 127-132.

報 告 そ の 他

- 1) 渡辺 毅 (1976) : アマゾンのサルの形態・分布の問題点。モンキー, 20, 54—61。
- 2) 渡辺 毅 (1976) : 世界のサルとニホンザル。アニマ, No. 34, 36。
- 3) 渡辺 毅 (1976) : 南米の動物の由来と大陸移動説。アニマ, No. 44, 34—35。

学 会 発 表

- 1) アカホニザルにおける性差と年令変化
渡 辺 毅
第30回日本人類学会日本民族
学会連合大会 (1976)
- 2) アヌビスヒヒとマントヒヒの雑種社会
河合雅雄・岩本光雄
庄武孝義・菅原和孝
第30回日本人類学会日本民族
学会連合大会 (1976)

神経生理研究部門

久保田 競・松波 謙一
酒井 正樹・三上 章允

- 1) 視覚追跡運動中の誤差補正に伴う大脳皮質ニューロ

ンの可塑性の研究

松波謙一, 久保田競, 浜田生馬

サルに視覚追跡運動を行なわせ、種々の運動のパラメータを外部から操作して、積極的に誤りを起こさせ、サルがこの誤りを克服して行くメカニズムを運動野ニューロンの発火様式の変化としてとらえ、調べてゆく。

2) 下側頭回及び前頭前野の神経生理学的研究

三上章允, 久保田競

下側頭回及び前頭前野には、複雑な視覚パターン刺激に応答する細胞が存在すること、又、下側頭回の破壊が視覚性の弁別、短期記憶に障害を与えることから、この部は、高次の視覚情報処理に関与しているものと考えられている。本研究では、サルに注視行動をオペラント条件づけし、各種の視覚刺激を与えると共に、行動の条件を変えて、ニューロン活動を記録することにより、下側頭回と前頭前野における視覚情報処理機構を解析している。

3) 随意運動発現時に発生する運動野ニューロンのシナプス電位の研究

松村道一, 久保田競

随意運動に先行して発射活動を示す運動野ニューロンが、どのような性質のシナプス電位を受けているかを調べるために、光刺激を手掛りとして手首の屈伸運動を行っているサルから細胞内記録法を用いて膜電位を導出し、随意運動との時間関係を解析している。

総 説

- 1) 久保田 競 (1976) : 顎運動の皮質性制御。“顎運動とそのメカニズム” (東京医科歯科大学, 歯学部顎口腔総合研究施設編), pp.233—239, 日本歯科評論社。
- 2) 久保田 競 (1976) : 脳と行動への神経科学的アプローチ。“感覚と行動の神経機構” (特定研究「神経科学」総括班研究報告書4), pp.117—125, 産業図書。

論 文

- 1) Kubota, K. (1976) : Motoneurone mechanisms: suprasegmental controls. "Mastication and Swallowing: Biological and clinical correlates." (B. J. Sessle and A. G. Hannam, eds.), pp.60-75, Univ. of Toronto Press.
- 2) Kubota, K. (1976) : Prefrontal programming of lever pressing reaction in the monkey. "Mechanisms Transmission of Signals for Conscious Behaviour" (T. Desiraju, ed.), pp.61-80, Elsevier Scientific Publishing Company.
- 3) Kubota, K., and S. Kojima (1976) : Prefrontal unit activity of undertrained monkeys in delayed-response tasks. "The Motor System:

Neurophysiology and Muscle Mechanisms"(M. Shahani, ed.), pp. 317-332, Elsevier Scientific Publishing Company.

- 4) Toyama, K., and K. Matsunami (1976) : Convergence of specific visual and commissural impulses upon inhibitory interneurons in cat's visual cortex. *Neuroscience*, 1, 107-112.

学会発表

- 1) Relation between activity in red nucleus neurons and force in a tracking task in the cat.

Ghez, C., and K. Kubota,
Sixth Annual Meeting of the Society for Neuroscience.
Neuroscience Abstracts. Vol. II, Part 1. P. 542. (1976).

- 2) Single unit activity in the dorsomedial parts of prefrontal and premotor regions in the visually conditioned motor task in monkeys.

Sakai, M.
Sixth Annual Meeting of the Society for Neuroscience.
Neuroscience Abstracts. Vol. II, Part 1. p. 126. (1976).

- 3) Inferotemporal unit activity and a color memory task.

Mikami, A., K. Kubota, and M. Tonoike,
第53回日本生理学会大会
J. Physiol. Soc. Japan. 38, 115-116, (1976).

- 4) Unit activity in area 6 and the isometric voluntary contraction in rhesus monkeys.

Sakai, M.
第53回日本生理学会大会
J. Physiol. Soc. Japan. 38, 108, (1976).

- 5) 「脳と心」の問題への神経生理学的アプローチ

久保田 競
日本心理学会第40回大会発表論文集 P. 538
(1976).

- 6) サルの左右の上肢の随意運動と皮質運動野の細胞活動について

松波謙一, 浜田生馬
第6回日本脳波筋電図学会学術大会抄録集
(1976)

- 7) 精密なコントロールを要する随意運動と前運動野ニューロンの活動

浜田生馬, 久保田競

第23回生理学中部談話会 (1976)
日本生理学雑誌, 39巻 P16

心理研究部門

室伏靖子・浅野俊夫
小嶋祥三・松沢哲郎

研究概要

- 1) 大脳半球の機能の非対称性について

室伏靖子・南雲純治¹⁾

左右大脳半球間の機能分化は、ヒトのみにみられる特性の一つと考えられてきた。しかし最近の資料は、特定の条件下の行動において、アカゲザルにも同様の事実が見出されることを示唆している。切断脳のアカゲザルを用いて、次の二つの側面から両半球の行動統制に非対称性が認められるか否かが検討された。1)斜線の方角弁別とカテゴリーゼーション、2)条件性維持弁別で、左右半球が競合する手がかりを与えられた場面における反応決定。

- 2) 行動の機能的等価性に関する実験的研究

室伏靖子・小嶋祥三・南雲純治

ニホンザルの餌に対する心理的距離の尺度を構成するために、餌までの待ち時間を変数とする種々のスケジュールの2種が同時に示された場合に、サルがどちらをより好むかが測定された。結果は、従来のハトやネズミの資料に比較して、サルの場合はより長い単位時間に対して敏感であること、個体のもつ反応速度やパターンに大きく影響されることを示している。

- 3) ニホンザルの社会的行動と個体間関係

A. タルタビーニ²⁾・室伏靖子

1. ニホンザルのワカオスの2匹および3匹の組み合わせによる観察結果の分析は、相互のグルーミングやマウンティング行動が、攻撃的行動にあらわれる優位度の順位と、特定の個体間の友好関係によって決定されること、第3の動物の存在はより優位な個体の攻撃性を増すことを明らかにした。

2. ケージ内および糞面群における子ザル(3~26月)の発達に伴う社会的行動の変容が、情報理論にもとづく行動連鎖の分析法によって解析された。

- 4) ハトの選択行動における報酬遅延の効果について³⁾

浅野俊夫

- 5) 霊長類の短期記憶に関する行動分析

小嶋祥三

1) 文部技官

2) 研修員(イタリアからの国費留学生)

3) カリフォルニア大学サンディエゴ校にて研究